

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	芸術：音楽Ⅰ（選択必修）		単位数 2 単位	履修年次 1 年次
目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
使用教材	教科書「教育芸術社 MOUSA1」 副教材「カワイ出版 高校生のための音楽ノート」			
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）	
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性の基礎について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするための基礎的な技能を身につけている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりすることができている。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。	
評価方法	評価の観点・評価規準をふまえ、普段の授業態度（課題への取り組み・提出物など）、実技試験、ペーパーテストなどにより総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・紀南高等学校の校歌 ・教科書記載の斉唱曲 【器楽・創作】 ・ボディパーカッション 【楽典】 ・音部記号 ・音符と休符		・行事ごとに必ず歌う校歌を覚える。またその背景や学校の歴史にも触れ知識を深める。 ・グループでそれぞれカップのパフォーマンスを考えて発表したり、曲に合わせた表現を工夫したりして、表現意図をもって創作に取り組む力を身につける。 ・音符記号の正しい書き方や音符と休符の種類、その意味について理解する。	
2	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・ドイツ語の歌 ・教科書記載の斉唱曲 ・合唱曲 【楽典・音楽史】 ・基本的な楽語（変化記号、強弱記号、奏法上の記号、速度の変化を表す記号） ・反復記号 ・楽器や作曲家の歴史、代表曲		・ドイツリートを原語のまま歌う力や、発音や日本語とは異なるイントネーションについて理解する力を身につける。 ・各声部ごとにパート練習に取り組み、その後合わせて曲を仕上げる力を身につける。また、自分のパートを責任を持って歌うことに加え、他のパートを聴き調和させながら、みんなで1つの曲を仕上げる喜びを味わう。 ・様々な楽語や反復記号の意味を理解する。また、楽器や作曲家の歴史、代表曲について理解を深める。	
3	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・日本歌曲 ・オペラやミュージカル曲 ・教科書記載の斉唱曲 【鑑賞】 ・オペラやミュージカルの鑑賞 【楽典】 ・音名		・我が国で長く歌われ親しまれてきた歌をとおして、日本の自然や四季、文化や日本語のもつ美しさを味わうとともに、我が国の音楽文化を受け継いでいく態度を育てる。 ・オペラ、ミュージカルの鑑賞をとおして、舞台音楽について理解する。またそこで用いられている曲の歌唱をとおして、オペラ、ミュージカルの理解を深める。 ・日本語・ドイツ語・英語等の音名を、派生音の読み方も含めて理解する。	
学習上の留意点	教科書を使用して、総合的に音楽について学習する。何事にも一生懸命、取り組む。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	芸術：音楽Ⅱ（選択必修）		単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。			
使用教材	教科書「教育芸術社 MOUSA2」 副教材「カワイ出版 高校生のための音楽ノート」			
評価の観点・評価基準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけている。	個性豊かに音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができている。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。	
評価方法	評価の観点・評価基準をふまえ、普段の授業態度(課題への取り組み・提出物など)、実技試験、ペーパーテストなどにより総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・イタリア語の歌 ・教科書記載の斉唱曲 【楽典】 ・1年次の復習 ・音程(2度、3度、6度、7度)		・イタリア語の歌を原語のまま歌う。1年次に学習した発音や日本語とは異なるイントネーションを意識し、歌唱に生かす。 ・1年次に学習した音部記号、音符と休符、楽語、反復記号、音名について再確認する。音程の学習への導入として、音符に変化記号がついた際の鍵盤の動き方について学習する。 ・音程の概念の理解や度数の数え方と種類について学習する。	
2	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・合唱曲 ・日本歌曲 ・教科書記載の斉唱曲 【楽典】 ・音程(4度、5度) ・音階と調(長音階)		・各声部ごとにパート練習に取り組み、その後合わせて曲を仕上げる。他のパートを聴き、調和させ美しいハーモニーを響かせることを目標とする。みんなで1つの曲を仕上げる喜びを味わう。 ・我が国で長く歌われ親しまれてきた歌を取り扱う。日本の自然や四季、文化や日本語のもつ美しさを味わうとともに、我が国の音楽文化を受け継いでいく意志を持つ。 ・長音階の音階の規則やその書き方について学習し、その音階の調が何であるか、日本語、ドイツ語、英語それぞれで理解する。	
3	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・フランス語の歌 ・オペラ、ミュージカルの曲より ・教科書記載の斉唱曲 【鑑賞】 ・オペラ、ミュージカルの鑑賞 【楽典】 ・音階と調(長音階)		・フランス語の歌を原語のまま歌う。発音や日本語とは異なるイントネーションについても学習する。 ・オペラ、ミュージカルの鑑賞を行い、舞台音楽について知る。またそこで用いられている曲の歌唱を行い、より深くオペラ、ミュージカルに触れる。 ・長音階の音階の規則やその書き方について学習する。またその音階の調が何であるか、日本語、ドイツ語、英語それぞれで理解する。	
学習上の留意点	・音楽Ⅰの履修が必要となる。 ・教科書を使用して、総合的に音楽について学習する。何事にも一生懸命、取り組む。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	芸術：音楽Ⅲ（選択）		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。			
使用教材	教科書「教育芸術社 Joy of Music」			
評価の観点・評価規準	（音楽への関心・意欲・態度）	（音楽表現の創意工夫）	（音楽表現の技能）	（鑑賞の能力）
	音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽表現を工夫し、どのように歌うか、どのように演奏するか、音楽を作るかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価方法	評価の観点・評価規準をふまえ、普段の授業態度（課題への取り組み・提出物など）、実技試験、筆記試験などにより総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	【歌唱】 ・オペレッタのアリアより ・日本歌曲 ・教科書記載の斉唱曲 【鑑賞】 ・オペレッタの鑑賞 【楽典】 ・音程（派生音を含む）		・オペラ、ミュージカルの鑑賞を行い、舞台音楽について知る。またそこで用いられている曲の歌唱を行い、より深くオペレッタに触れる。 ・我が国で長く歌われ親しまれてきた歌を取り扱う。日本の自然や四季、文化や日本語のもつ美しさを味わうとともに、我が国の音楽文化を受け継いでいく意志を持つ。 ・2年次に学習した音程についてより深く学習をする。幹音同士だけでなく＃や♭がついた場合の音程についても理解する。	
2	【歌唱】 ・教科書記載の曲を中心としたさまざまなジャンルの曲 【器楽】 ・童謡 【鑑賞】 ・一学期を基盤とし、さらに発展させた曲 【楽典】 ・音階と調（関係調を含む）		・総合的な音楽に対する知識と技術を養い、様々なジャンルの音楽に対応できる力をつけ、より深層まで研究・分析する力を身につける。 ・我が国で幼少期を中心に親しまれている童謡の演奏技術を身につける。親しみやすい旋律や曲想に触れ、同時に演奏の経験を積む。 ・2年次に学習した音階についてより深く学習をする。長音階の調号の付け方や音階の各音の名称、主調に対する属調や下屬調が書ける技術を身につける。	
3	今までの学習のまとめとして、歌唱・器楽の中から選択し、楽曲分析を基に演奏し発表		・作曲者の背景や意図を十分理解した上で、自分自身がどのように表現したいかを考え、自己表現のレベルを超え、さらに聞いている人にも伝わるものがある演奏を行う。	
学習上の留意点	・音楽Ⅰ・Ⅱを踏まえ、声楽、器楽、楽典ともにより高度な内容を専門的に学ぶことができる講座である。 ・音楽Ⅰ・Ⅱの履修が必要となる。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	芸術:実技Ⅱ【音楽】(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	声楽や器楽の発展的な演奏技術を身につけ、個性豊かな表現力を習得する。			
使用教材	プリント他			
評価の観点・評価基準	(音楽への関心・意欲・態度)	(音楽表現の創意工夫)	(音楽表現の技能)	(鑑賞の能力)
	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	評価の観点・評価基準をふまえ、普段の授業態度(課題への取り組み・提出物など)、試験(実技等)などにより総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	・ソルフェージュ(リズム) ・個人実技・集団実技のレッスン ・グループアンサンブル		・音楽を理解し表現するための訓練を行い、楽器演奏のための発展的な技術を身につける。 ・鍵盤楽器、吹奏楽器を使ったグループアンサンブルを行い、発展的な技術を身につける。	
2	・グループアンサンブル ・個人実技・集団実技のレッスン ・卒業制作発表の準備		・個人に応じた実技レベルの習得をすることによって、発展的な技術を身につける。 ・アンサンブルによって、みんなでひとつの曲を完成させる喜びや個人だけでは表現できない音楽のすばらしさを体験する。	
3	・2学期に引き続き、卒業制作発表の準備		3学期に行われる卒業制作発表に向け、さらに発展的な技術を身につける。	

学習上の留意点	・じっくりと楽器演奏に取り組むことができる講座である。 ・年度末には卒業演奏を行う。 ・実技Ⅰの履修が必要である。
----------------	---

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	芸術:芸術発展【音楽】(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	音楽文化の背景について音楽史と理論を中心に学習することで、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。			
使用教材	プリント他			
評価の観点・評価規準	(音楽への関心・意欲・態度)	(音楽表現の創意工夫)	(音楽表現の技能)	(鑑賞の能力)
	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	評価の観点・評価規準をふまえ、普段の授業態度(課題への取り組み・提出物など)、試験(筆記等)などにより総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	・音楽史の学習 バロック～初期ロマン派頃まで。作曲家に応じて鑑賞を行う。音楽理論についての基礎的な力を伸ばす。		作曲家について鑑賞を中心に学習し、様々な理論を裏付けにした上で感想を表現できるような力をつける。	
2	・音楽史の学習 初期ロマン派～後期ロマン派頃まで。作曲家に応じて鑑賞を行う。音楽理論についての実践を行う。		作曲家について鑑賞を中心に学習し、様々な理論を裏付けにした上で感想を表現できるような力をつける。	
3	・音楽史の学習 近代～現代まで。作曲家に応じて鑑賞を行う。音楽理論についての実践を行う。		作曲家について鑑賞を中心に学習し、様々な理論を裏付けにした上で感想を表現できるような力をつける。 学習を通じて曲の持つ意味や演奏するときの感情表現の方法を学び、発展的な音楽を理解する。	
学習上の留意点	・実技は行わず、資料やノートに書き込み学習を進める。 ・音楽Ⅰ・Ⅱの履修が必要となる。			